

令和元年鳥獣被害調査結果報告

サルによる被害が北部でも増加!

市内では、イノシシやニホンザル、ニホンジカなどの鳥獣による農作物の被害が大きくな問題となっています。その被害額は、ピーク時の平成22年には1億円を超えたこともあり、また。市では毎年、有害鳥獣の捕獲、防護柵の設置とともに、各地域における被害状況の調査を行い、実態把握に努めています。

鳥獣被害調査結果

令和元年の被害総額は、前年から微増の4471万円（前年比104%）となりました。

被害率は31.8%と、過去5年で1番低い結果となりましたが、一戸当たりの被害額が過去5年で最大の48182円（前年比115%）と増加しました。鳥獣被害が一部に集中しつつある傾向がみとれます。

地域別の被害額は高鷲・明宝・和良では増加し、八幡・大和・白鳥・美並では減少しました。高鷲地域では前年の1.6倍近い結果となり、7地域の中で被害額が最大となりました。

鳥獣別では、イノシシの被害額は805万円と前年に比べ2割以上減少しました。これは、各地域での対策の結果と、豚熱（CSF）による頭数減も要因と考えられます。また、ニホンザルによる被害額は1737万円と全体の39%と、鳥獣種の中で最も大きく、3年連続で増加しており、勢いが増しています。

引き続き防護柵等の対策をお願いします。



- ▼調査期間：平成31年1月1日から令和元年12月31日
- ▼調査対象：市内全農家（各地区の農事改良組合に所属する農家）
- ▼調査方法：農事改良組合長を通じて調査票を各農家へ配布し、農産物の被害の有無、被害面積（被害量）等を報告していただきました。

【表①】

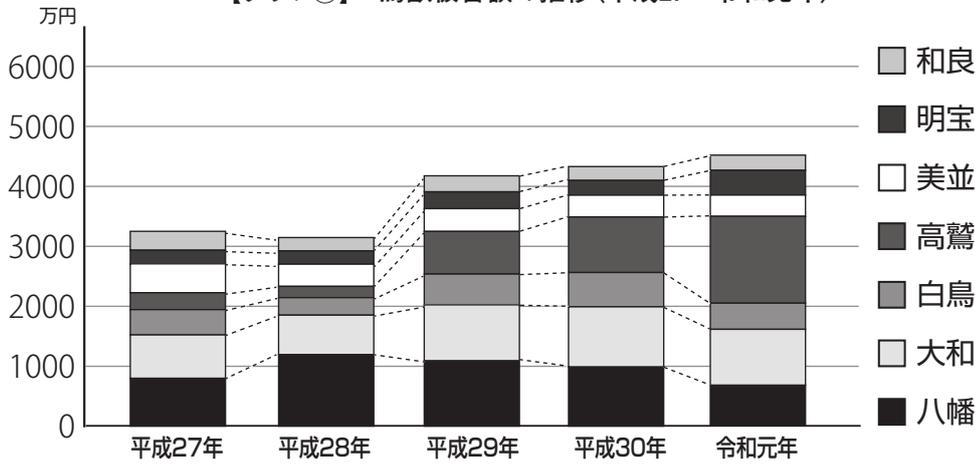
地域別被害額

(単位:万円)

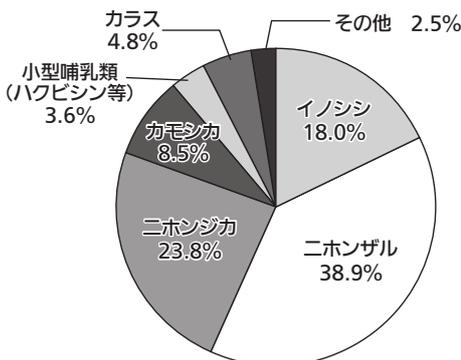
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年(被害率)	前年比
八幡	792	1,184	1,081	979	669 (46.5%)	68.3%
大和	718	653	927	995	924 (27.5%)	92.9%
白鳥	418	290	510	568	432 (24.4%)	76.1%
高鷲	280	187	705	918	1,435 (32.5%)	156.3%
美並	479	367	377	362	351 (32.3%)	97.0%
明宝	225	221	279	244	409 (27.3%)	167.6%
和良	313	220	265	230	251 (44.1%)	109.1%
合計	3,225	3,122	4,144	4,296	4,471	104.1%
被害戸数	1,074戸	959戸	1,236戸	1,027戸	928戸	90.4%
一戸当たり被害額	30,027円	32,554円	33,531円	41,828円	48,182円	115.2%
回答率	39.0%	41.1%	52.6%	54.1%	50.9%	94.1%
被害率	41.9%	36.2%	39.9%	32.6%	31.8%	97.6%

※調査票は、市内在住の農事改良組合員を対象として、5,732戸に配布し、2,917戸より回答いただきました。
 ※被害額は、「被害面積（数量）×作物の基準単価」により算出しました。
 ※一戸当たり被害額は、「被害額/被害戸数」により算出しました。
 ※被害率は、「被害戸数/回答戸数」により算出しました。

【グラフ①】 鳥獣被害額の推移(平成27～令和元年)



【グラフ②】 鳥獣別被害割合



【表②】 鳥獣別被害額

(単位:万円)

鳥獣	平成30年	令和元年	増減額	前年比
イノシシ	1,048	805	-243	76.9%
ニホンザル	1,300	1,737	437	133.6%
ニホンジカ	1,089	1,062	-27	97.4%
カモシカ	297	379	82	127.6%
小型哺乳類(ハクビシン等)	263	162	-101	61.5%
カラス	206	216	10	104.9%
その他	93	110	17	119.5%
合計	4,296	4,471	175	104.1%
一戸当たり被害額	41,828円	48,182円	6,354円	115.2%

【表③】 作物目別被害額

(単位:万円)

品目	平成30年	令和元年	増減額	前年比
水 稻	1,696	1,875	179	110.6%
根菜類 (大根、人参等)	902	1,112	210	123.3%
葉茎菜類 (白菜、ネギ等)	136	127	- 9	93.5%
洋菜類 (ブロッコリー等)	1	3	2	199.8%
果菜類 (カボチャ、トマト等)	522	467	-55	89.5%
豆 類 (大豆、インゲン等)	47	58	11	122.6%
土物類 (ジャガイモ等)	280	213	-67	76.2%
花卉類 (南天等)	60	15	-45	25.6%
果物類 (栗、柿等)	289	215	-74	74.3%
その他 (牧草等)	363	386	23	106.2%
合 計	4,296	4,471	175	104.1%
一戸当たり被害額	41,828円	48,182円	6,354円	115.2%

作物目別では、水稻の被害額が1875万円と最も多く、ダイコンやニンジン等の根菜類が1112万円と続きます。水稻と根菜類で被害の65%以上を占めています。その他の作物は、多少の増減はあるものの前年より被害が減少しているものが多く、被害総額の増加は、水稻と根菜類の増加が大きく影響していることがわかります。

さらに被害の詳細をみると、白鳥を除いた6地域で二ホンザルによる被害が最も大きくなりました。これまで二ホンザルの被害が少なかった

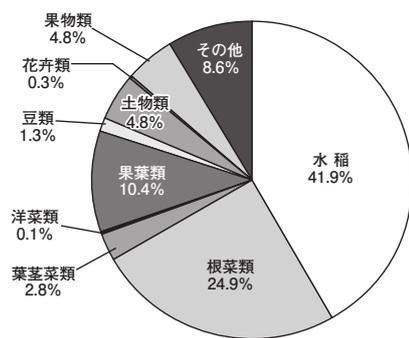
【表④】 被害割合上位3 (鳥獣別・作物目別)

(単位:万円)

	鳥 獣	被害額		品 目	被害額		割 合
		被害額	割 合		被害額	割 合	
八幡	二ホンザル	282	42%	水稻	352	53%	八幡
	二ホンジカ	202	30%	根菜類	102	15%	
	イノシシ	110	16%	果菜類	83	12%	
大和	二ホンザル	344	37%	水稻	381	41%	大和
	イノシシ	219	24%	根菜類	162	18%	
	二ホンジカ	196	21%	果菜類	111	12%	
白鳥	イノシシ	149	35%	水稻	256	59%	白鳥
	カラス	82	19%	果菜類	77	18%	
	カモシカ	72	17%	根菜類	31	7%	
高鷲	二ホンザル	528	37%	根菜類	753	53%	高鷲
	二ホンジカ	444	31%	飼料作物	320	22%	
	カモシカ	180	13%	水稻	225	16%	
				水稻	229	65%	
美並	二ホンザル	156	44%	果菜類	34	10%	美並
	イノシシ	71	20%	果物類	33	9%	
	二ホンジカ	66	19%				
明宝	二ホンザル	255	62%	水稻	254	62%	明宝
	イノシシ	83	20%	果菜類	58	14%	
	二ホンジカ	45	11%	土物類	46	11%	
和良	二ホンザル	135	54%	水稻	177	71%	和良
	二ホンジカ	79	31%	果菜類	25	10%	
	その他	14	6%	土物類	15	6%	

【グラフ③】

作物目別被害額割合



郡上市北部にも出没するようになっており、ここ数年で生息域が変化している可能性があります。



【表⑤】 有害獣の捕獲状況

(単位:頭)

鳥 獣	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
イノシシ	230	432	714	489	292
二ホンザル	191	352	342	343	339
二ホンジカ	1,684	2,274	3,159	2,199	2,165
合 計	2,105	3,058	4,215	3,031	2,796

市では、農作物鳥獣被害対策として、有害鳥獣の捕獲、防護柵の設置に対する補助等を行っています。令和元年の主な鳥獣捕獲数は、イノシシ292頭、二ホンザル339頭、二ホンジカ2165頭でした。豚熱(CSF)の影響でイノシシの捕獲頭数が減少しているものの、過去5年と比較して一定の水準を維持しています。イノシシ、二ホンザル、二ホンジカによ

市の鳥獣被害対策について

【表⑥】 各種防護柵の設置距離

(単位:km)

	平成26年度以前の設置距離	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合 計
簡易電気柵	298.6	10.1	5.8	12.8	3.6	0.9	331.8
その他簡易柵(ネット等)	38.5	2.1	0.6	0.8	1.1	0.8	43.9
恒久柵	142.8	19.7	11.4	6.9	7.0	1.0	188.8
合 計	479.9	31.9	17.8	20.5	11.7	2.7	564.5

問

67・1835 農林水産部農務水産課

今後の対策としては、これらの防護柵に加え、残さの処理や追い払い、耕作放棄地対策などをあわせて行うと効果的です。また、個々の対策はもちろん、地域ぐるみの対策が望まれます。

被害は依然として大きく、継続して捕獲を行っていく必要があります。